

◎ワーク／レクチャー～あわい探求を深める
「未知と出会う歩み」

日時: 2022年11月5日(土) 13:00~16:00

場所: 小金井市環境学楽館

ゲスト: なかのまさき(写真家)

参加者: 会場7名 zoom2名

現地スタッフ: 3名

オンラインスタッフ: 1名

今回は、1995年より北欧フィンランド、ノルウェーを訪れ、北極圏サーミランドの先住民族・サーミのサケ・マス漁やトナカイ飼育のようす、都市に住むロマ(ジプシー)の人びとを撮影してきた、写真家のなかのまさきさんをゲストとしてお招きします。会場に展示されたなかのさんの写真を眺めながら、なかのさんが今までどのように人や動物、場所、その他さまざまに出会ってきたのか。元々学んでいた水産学の世界から、どのように写真と出会ったのか。生物学の世界とアートの世界のあわいにいらっしゃるなかのさんにとって、写真がどういう役割を担っているのか。なかのさんが「未知に出会ってきた歩み」についてお聞きしました。後半は、なかのさんと共に、参加者の持ち寄ったものを会場のおもいおもいの場所に置き、眺め、話してみました。また、会場にはなかのさんの写真が展示されました。

①なかのさんの活動紹介

『水産学と写真のあわいで サケマスとサーミとロマと』

なかのさんのこれまでの活動や、旅において大切にしていることについて伺いました。

なかのさんの旅の数カ条：

- ・サケとロマのいる国ならどこでも。
- ・巻き込まれることを楽しむ。
- ・辺境などない。そこに人の暮らしがある限り。
- ・とにかく現地の人たちに気に入られるようにしなさい。彼らにあなたを受け入れる義務はないのだから。



②五感の記憶が促される、情景が視覚化されるもの

『「聞く」「感触」「匂い」「味」』

写真や映像のような記録には、視覚的に見えるもの以上の様々なものが含まれています。例えばその写真を撮った場所の音やにおい、感触などが、後から写真を見るだけで蘇ってくる場合があります。そのような、「五感」の経験について、伺いました。



③参加者の持ち寄ったものを、思い思いの場所に置いてみる

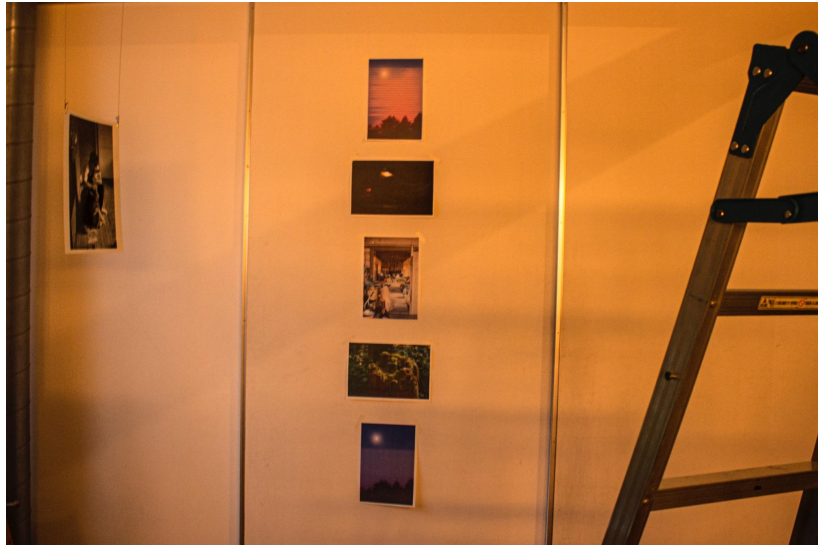
それぞれ持ち寄ったものを会場に置き、皆で話しました。

なかのさんから参加者へ、事前に出されていたワーク：

自分の生活や日常の中、過去のものの中、前回のフィールドワークの中で、自身の五感の記憶が促される「情景が視覚的にわかるもの」をお持ちよりください。



参加者の持ち寄ったもの(一部):



気になった写真を何枚かプリントしてみた。

写真①:霧がすごかった。肌に触れる霧の感じを思い出す。

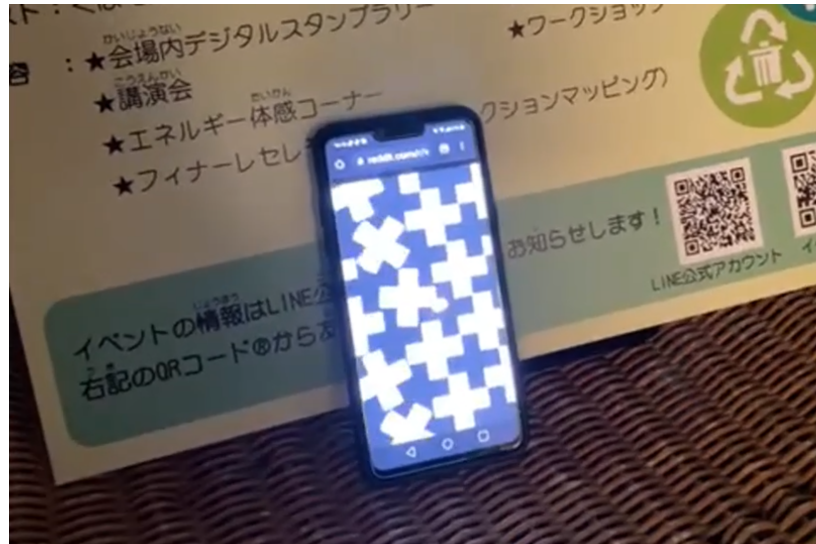
写真②:夏にちょうど東名高速が台風で走れなくて、下を走ってたら、海沿いで見えた風景。月と雷。車の中から写真を撮るために窓を開けたら、湿度と海の香りが入ってきた。家族には迷惑がられた。これも肌に残る記憶。

写真③:よく会いに行っていた、農家のおばあちゃんの納屋の写真。もう壊されちゃってないけど、その時話を聞いた話し声とか、おばあちゃん表情とかを思い出す。(参加者)



粉塵、匂い、熱さを思い出す写真。(参加者)

→匂いの記憶は残る。自分の場合、強烈な匂いも記憶に残るし、似たような匂いを嗅いだ時に、別の映像が浮かんできたりする。(なかのさん)



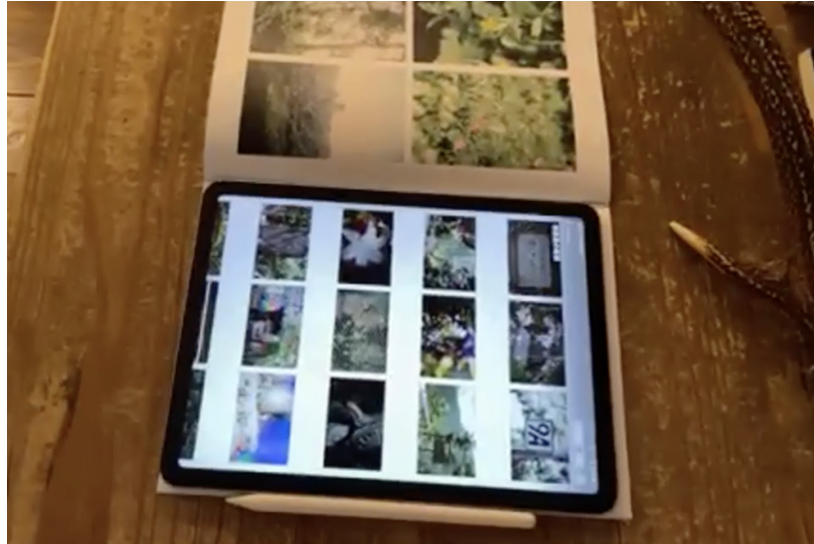
フィールドワークの時に、福島を歩いて。いく道が綺麗で、再生してきているな、いわきの夜も賑わっているなと思ったんだけど、帰ってきて、ゼネコンの人たちがやったと言う話を聞いて、よく考えてみると、綺麗になっている＝税金で再生された道なんだなと。その綺麗な道には人が全然なくて。語り部のおばあさんも、口籠る時があったりして。震災までの話は楽しい話は饒舌で、震災後のはなしは弾まない。それって、グレーだと。グレーの部分がパッと見全然見えない、福島。

見た目は綺麗だけど、原発の周りにも綺麗な再生施設はあるけど、原発のところにはいけないようになってる。古い家があるけど、入れないようになっている。居心地がいい古い場所は朽ちて、入れないようにして、綺麗な道は作る。無理矢理、実態を伴わない、再生の黒と白を感じたのが福島。この映像は白と黒が常に入れ替わっていて、それがまさに、あわいかな、と。(参加者)



「オオカミの護符」という本を読んだ時に草野や秩父には三匹獅子舞の伝統があって、それが多摩の方に伝わってきているということを知った。これ(写真)は近所のカフェ。うちの近くの青渭神社でも三匹獅子舞が行われていたが、コロナで2年間やられてなかったそう。存続の危機ということで、そのカフェで三匹獅子舞のデモンストレーションが行われた。その話をSNSで知って。ここ(住んでる場所)にもあったんだ、と思って。実際に三匹獅子舞の時に吹かれる篠笛の練習にも参加した。

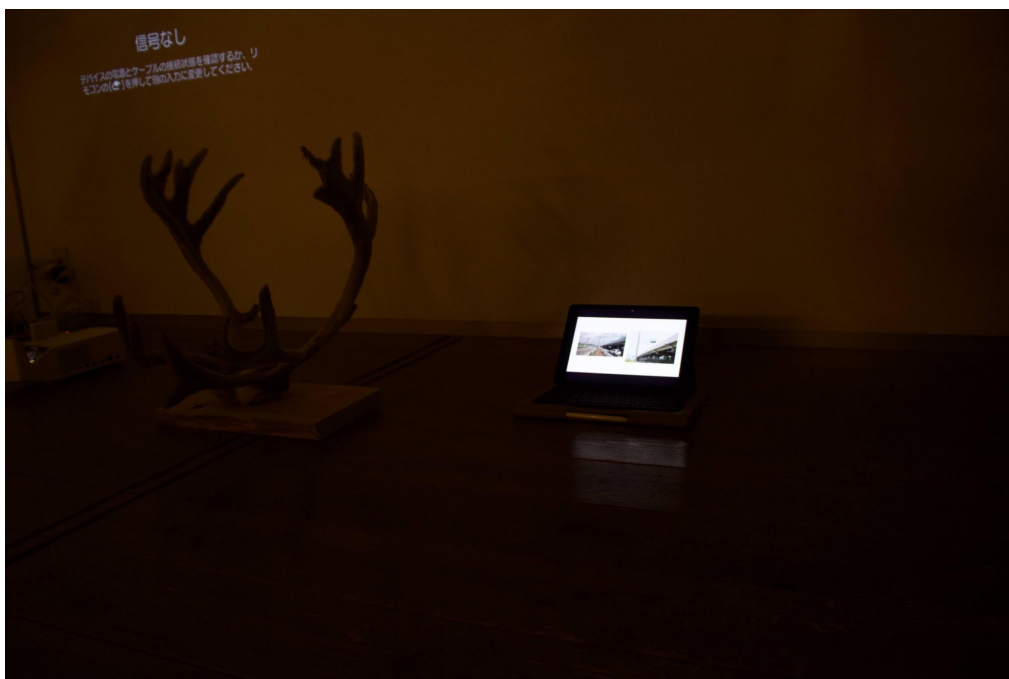
本の中で知った「三匹獅子舞」という言葉をSNSで発見して、それが実は近所の神社で行われていて、練習に参加して、篠笛を実際に吹いた。ただの単語だったものが自分の体験になっていく流れがあって、面白かった。不思議な経験をしたなと思う。(参加者)



自分の撮った写真で、五感を刺激されるものがあまりないと思う。

山登りが好きなのですが、山に登った時の、感覚が呼び起こされる色んな人の写真と、もらった鹿の角。自分の写真だと、最近御巢鷹の尾根というところに行ったので、その写真を持ってきた。自分の撮った写真に納得いかない。人の撮ったものを見ると、刺激がある。(参加者)

→撮った時点で、その撮る被写体を決めているわけで、そこには撮っている本人の感情が入ってる。私の場合もそうで、どの瞬間で撮ってるかといわれたら、感情に委ねて撮っている部分が多いと思う。そう考えると、少なくとも、これは見た人に影響を与える写真かなと。(なかのさん)



足尾銅山と渡良瀬川の周りの写真と、その辺りを自転車で回った時の映像。過去に汚染されていたながら、新しく開発をされて綺麗になった風景。自分の体の記憶があるもの。ハゲ山(中倉山)に登ったり、渡良瀬遊水地でヨシを狩ったりした場所。(参加者)

④最後、なかのさんから

あわいの部分でないと、表現できないものが確実にあります。そこに大事な意味を見出していくべきだと思うし、大事にしていきたいと思います。

⑤なかのさんの展示の様子





⑥参加者の展示の様子

